

新しい電子ジャーナル **Bioscience of Microbiota, Food and Health** のお知らせ

これまでの数多くの研究によって、腸内細菌叢や食品が免疫機能などの生理機能を介して健康に深く関わっていることが明らかになっています。また、乳酸菌など有用微生物の活用技術の進展は人々の生活を豊かにしてきました。このような研究をさらに進め、ヒトの健康維持・増進などに役立てるためには既存の研究分野を超えた学際的研究が必要です。

日本ビフィズス菌センター、日本乳酸菌学会、日本食品免疫学会の 3 団体は、学際的研究を加速し、共同研究による新しい学問を発展させることを目指して連携してきました。そして、このような研究を支え発展させる手段として、関連する学問領域間で情報を交流し、研究成果を世界に発信するための新しい英文誌 **Bioscience of Microbiota, Food and Health** (略称 **BMFH** 誌) を共同で刊行することにしました。

そのため、上記 3 団体は 2011 年 8 月に「**BMFH** 出版会」を発足させ、2012 年 1 月発行の第 1 号を皮切りにして、年間 4 号の **BMFH** 誌を刊行することを決定しました。研究成果を速やかに発信するため、**BMFH** 誌は電子ジャーナルとして刊行しますが、紙媒体での出版も計画しています。

現在、投稿規定と査読システム、ホームページなどの準備を進めており、本年 9 月頃に詳細なご案内を差し上げる予定です。(それまでの間、本紙に関する情報は上記 3 団体のホームページなどをご覧ください)

多岐にわたる分野の様々な研究成果を、日本国内はもちろん世界に発信し、腸内細菌叢と食品と健康に関わる新しい学際的研究を興隆するため、本誌が大きな役割を果たせるようにするという固い決意で準備しております。

ご研究成果を発表されようとしている研究者の方は、是非 **BMFH** 誌へのご投稿をお願いします。また、本誌では多くの総説記事も掲載する予定ですので、ご希望の内容などを **BMFH** 誌編集委員会までお知らせ頂ければ幸いです。

皆様のご協力、ご援助、ご鞭撻を切にお願いします。

2011 年 8 月吉日

BMFH 出版会

BMFH 誌編集委員会 委員長 神谷 茂 (杏林大学大学医学部)

副委員長 佐々木 隆 (科学技術振興機構さきがけ)

副委員長 八村 敏志 (東京大学大学院農学生命科学研究科)